



パートナーシップ通信 vol 2

2020.1

2019 年度より外来を除く全病棟で PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）を導入しています。今回いち早く PNS を導入していた 9 階西病棟に、PNS を導入した経緯と教育体制についてインタビューを行いました。9 階西病棟は NICU・GCU を持つ新生児センターであり、各自が専門性の高い看護スキルを持つことを求められます。長年、指導者が中心となって新人を指導する状況でしたが、PNS の導入により、部署全体で育成する意識が生まれ、共に実践し育成する体制に変化しています。そこに至るまでの看護師長・副看護師長をはじめ、スタッフ全員での取り組みをご紹介します

2019 年 4 月入職時のフレッシュナースです



原田副看護師長

岡看護師長

高橋副看護師長

参加メンバー：岡看護師長、原田副看護師長、高橋副看護師長
織田看護師（PNS 実行委員）
藤川看護師（フレッシュパートナー）
坪西看護師（フレッシュパートナーサポート委員）
他スタッフの皆さん

Q いち早く PNS に取り組んだきっかけと部署の変化を教えてください

岡： 9 階西病棟は 専門性が高い病棟であることからスタッフの育成に非常に時間を要していました。挿管患者を持てるまでに

1 年以上かかる等、いわゆる「一人前」と言われるまでにすごく時間のかかる所と感じていましたし、その分先輩スタッフの負担がすごく大きいなと思っていました。ペアを組むことで、先輩看護師と『共に見る』ことができ、先輩看護師のアセスメントの視点や大切にしているところを、傍で見る、実感する機会が増えることで 育成が進むことができると考え、2 年前から PNS の試行を始めました。挿管をしている小さい赤ちゃんがいるということで緊張感が高く、1 人が背負うストレスも大きいです。これを常に 2 人で共に見て、考えることができると、それらのストレスを少しでも和らげられるという期待もありました

原田：わたしは、9 階西病棟で PNS を試行してちょうど 1 年たった昨年に副看護師長として異動してきました。病棟は PNS 試行のルールがある程度が敷かれた状態だったので、試行当初の戸惑いを乗り越えていた感じでした。副看護師長という立場だけでなく、自分自身 40 代という年齢になって、このような専門性の高い部署に異動したということで正直不安がありました。でも PNS によって、ペアナースの見る視点やとか判断をすぐそばで一緒に体験して、ともに看護するということができ、助けられたと思っています

高橋：新人の育成のスピードを考えると前よりも進むのが早くなったと感じていますね。2 年前にきたばかりのときは、まだ育成には苦労している最中だった。元々いたスタッフの考えというか、育成する上で、『ここまでステップアップしてから』とか『できてから次へ…』というような考えの根強い壁はあったのかなと思う。ただ、実際ペアを組んでやってみるとできることが増えて、それを見た他のグループのメンバーも、今日はここを一緒にやってみようとか変わってきた。実際、挿管している赤ちゃんを受け持てるスタッフが増えるなど、成長のスピードが速くなっているなど、PNS の効果を実感できてきたのかなと思います

藤川：わたしは、部署 4 年目でフレッシュパートナーをしています。各グループにフレッシュパートナーがいて、体制は整っています。最初に体制が変わるときは、スタッフの抵抗や戸惑いもありましたし、PNS の考え方を浸透させていくことは、中々難しかった。一つ進める度に戸惑いの声がたくさん上がって…。でも、それを PNS のコアチームで相談しながら、一つひとつ

方法を検討したことで、解決に繋がっていくことができたと思います。看護技術の習得とか物考える力とか発信力等、教育計画にある目標に達することが早くなったと思います。例えば、挿管している児を受け持つまでのスピードとかすごく早くなったとか…。期間としては、一概には言えないけど、今までは2年目の終わりに挿管している児を受け持つ感じだったが、個人差もあるけど1年目終わりとか、2年目の初めには受け持っています。まだ教育計画も実践しながら見直し修正している途中なので、これからまた、どんどんPNSでの育成効果が見えてくるかもしれないです。もちろん、グループ活動とかペアでの看護実践をみても底上げされていると感じます



Q コミュニケーションについては、以前と比べて変化していますか？

藤川：PNSを導入する前までは、1人で2人の赤ちゃんを受け持つ感じで、“困ったら相談するかな…”というぐらいだったけど、今はペアとなって、今までの倍の人数を受け持つことになるので、タイムリーに情報共有しないとアセスメントもできない。常にコミュニケーションを取っていかないといけない…という意識になり、それは実践できていると思います

Q 特に新人看護師とのコミュニケーションではどう思いますか？

藤川：2人で情報収集をして共有する時点でも、互いに不足していた部分に気付くということがある。ベテランでも新人でもそこは変わりないと思います。新人の疑問や気づきを共有して、問題を一緒に考えて解決するよう努めているので、コミュニケーションは取れていると思います。ペアを組む新人から質問を受けることで、別の視点に自分自身も気づくことがあり、わたしも成長できていると感じています

坪西：9西は既卒・異動者の人も多いし、新人さんに限らず伝えあうこと、話し合うことができてるのかな。体制が整っていると上の人だから言いにくいということなく、コミュニケーションはとりやすいと思います

原田：そうですね。今日一緒にペアを組み密接に共有できる相手がいることは、新人だけでなく、経験者が新しい職場に入ってくるという意味でも、すごく重要で助けになると思います

Q PNS 実行委員と、フレッシュパートナー等の連携はどのようにしていますか？

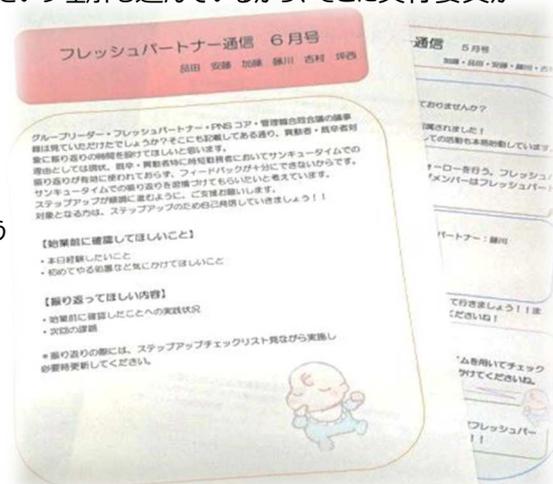
織田：フレッシュパートナーの会議に参加はしていないので、実行委員として個人的にフレッシュパートナーに情報収集をしたり、確認する感じです

岡：係活動として、PNSとフレッシュパートナーの係があり、それぞれ会議はしている。でも、各グループにはフレッシュパートナーがいて、PNSの係もいるので、グループの中から情報得て吸収する感じですね。両会議ともに副看護師長は参加しているので、内容によって双方で情報を共有できるように伝えるなど働きかけていますね。また昨年度から副看護師長も『PNSで教育、新人を育てるといったことはこういうこと…』等、スタッフ全体に説明する機会も繰り返していたので、あえて連携するために会議を持たなくても既に浸透していたかもしれない。課題に応じて、実行委員も含めて検討という感じです

原田：フレッシュパートナー会議の中では“PNSで新人を教育することはこうだよ”という理解も進んでいるから、そこに実行委員がその都度介入しなくても、困っていないのかもしれませんが

岡：逆に今回困ったのはグループのメンバーが新人を育てていくこと、理解ですかね。まだ時間はかかると思います

原田：そうですね…最初はフレッシュパートナー任せじゃないけど、何となくそこに頼るようなことがあって、新しくきた新人さんがどういう人かわからないっていうのも大きかったと思います。でもフレッシュパートナーの係から『フレッシュパートナー通信』を発行するなど、フレッシュパートナーからまず皆に伝える等、新人さんの状況が把握しやすいように活動してくれた。



そのことで、だんだん“新人はグループで育てるんだ！”という意識が生まれてきて、グループメンバーも新人さんにより関わる
ことができるようになってきたと思う。このような情報を共有するシステムを活用しながら、乗り越えていけると思っています



新人岡部ナースにインタビュー



Q 先輩とペアになって、日々PNSを実践してはどうですか

自分では気づけないこととか、考え方や動き方を学ぶ機会がすごく多いと思います。先輩がすぐそばにいるというのは心強いし、
自分から発信したこともアドバイスをもらいながら、色々な方法を試していけたりするところがいいです
先輩たちは尊敬するところばかりです。先輩たちのようにになりたいな…と思って日々働いています